

福井県小学校長会創立75年を迎えて

福井県小学校長会

会長 田 中 範 継



福井県小学校長会は、今年度75周年を迎えました。

この記念すべき節目に当たり、改めて、先人から受け継いできた学校教育の理念、目的、目標といった「不易」の実現と、予測困難な社会や時代の変化「流行」への対応を、今一度、大切にしていきたいと感じさせられます。

県内、各小学校の校長室にある「福井県小学校長会四十年史」及び「福井県小学校長会五十年史」には、昭和24年10月3日の結成時の様子が記録されています。当時の規約には、「福井県各郡市小学校長会の連合機関として職能の向上 民主教育の振興を図り平和国家の建設に寄与する事を目的とする。」とあり、このことはこれまで脈々と受け継がれてきたことでもあります。

今年3月に発表された「次期教育振興基本計画」（中教審答申）では、第3期計画期間中の成果として、国際的に高い学力水準の維持、GIGAスクール構想、教職員定数改善等が挙げられ、その一方で、課題として、コロナ禍でのグローバルな交流や体験活動の停滞、不登校・いじめ重大事態等の増加、学校の長時間勤務や教師不足、地域の教育力の低下、家庭を取り巻く環境の変化等が示されました。

私たちは、これから、将来の予測が困難な時代において、自らが社会の創り手となり、持続可能な社会を維持、発展させていく子どもの育成や、Society 5.0の時代に活躍する、主体性、リーダーシップ、創造力、課題発見・解決力、論理的思考力、表現力、チームワーク等を備えた子どもの育成を目指すことになるでしょう。また、多様な個人が幸せや生きがいを感じ、地域や社会が幸せや豊かさを感じられるものとなるための、ウェルビーイングの向

上をめざした教育の在り方を探ることにもなるでしょう。

また、福井県の教職員として、福井の風土に根付いた教育文化を継承しつつ、県が目指す、子ども自身の個性に気づかせ、それを伸ばしていくような「引き出す教育」や、好奇心や探究心をもって学びを自ら進んで「楽しむ教育」を家庭や地域などとの幅広い連携・協働のもとで推進していかなければなりません。

福井県小学校長会は、今後も、組織内の情報共有と連携を図り、総力をあげて課題解決に努めるとともに、コロナ禍で得た知識や対応力をフルに生かしたレベルアップした新しい令和型の教育の推進に寄与していきたいと考えています。新型コロナウイルス感染症の感染症法上の扱いが5類に移行するのを節目に、with コロナの時代に即した教育活動の在り方を、全連小との緊密なつながり、教育委員会との連携を維持しながら全県規模で考え、共有し実践につなげていきます。

さらに、私たち校長は、県民・国民の信頼に応えるために、自らの使命を自覚し、志高く学び続け、その権限と責任のもとに、未来社会に夢と希望をもち、たくましく生きる児童の育成を志向して、活力ある学校・信頼に応える学校づくりに努めていかなければなりません。

今年度も各校長が魅力的なリーダーシップを発揮し、本県教育を牽引していく校長会でありたいと考えています。

第75回福井県小学校長学校運営研究大会(若狭大会)講演

講演 「7万年のすごい縞、水月湖年縞」
(概要)

福井県 年縞博物館学芸員

北川 淳子 氏

三方五湖のひとつ、水月湖の底に、7万年分の縞模様の泥が溜まっており、これを年縞といいます。水月湖の年縞は世界的にも類を見ない非常に貴重な堆積物です。

水月湖は、面積4.15平方キロメートルあって、周囲が9.85キロメートル。深さ34メートルです。

縞状の堆積物は明るい層と暗い層が1年分、全部で7万年分あります。



まず、春先から秋にかけてプラクトンが大発生して、その死骸が溜まり、黒っぽい層になります。電子顕微鏡写真を見るとガラス質の殻を持った珪藻の遺骸でできています。冬場には生物活動が休止し、菱鉄鉱や大陸の奥地の砂漠から飛んできた黄砂、雨に流されてきた泥などが溜まり主に鉱物質でできた白っぽい層になります。

水月湖に日本の他の多くの湖にはない年縞が見られるのは湖底に酸素がないためです。酸素がないと魚や貝などが湖底をかき乱さないため、溜まったものがそのまま保存されます。また、水月湖は水深が深く、湖底に塩分濃度の高い水が溜まり、表層はほぼ淡水であるため湖水が混ざりにくく、湖底の無酸素状態が保たれています。

年縞のある湖の中でも特に水月湖が目される理由は7万年も続いているということにあります。通常だと湖はものが堆積するためにどんどん浅くなり、湖底の酸素濃度が高くなるため年縞がなくなり、やがて数万年で湖が埋まってしまう。水月湖がそうならないのには実は断層が関係しています。水月湖は三方断層の西側にあり、平均すると1年に0.7ミリ沈んでいると言われていて、堆積速度が1年に平均0.7ミリなので堆積によって水深が浅くなった分沈降により深くなるのです。

年縞は7万年分欠けることなく湖の底から取り出されています。ボーリング調査では湖上から1mくらいのパイプを何度も押し込んで引き上げていきます。年縞は45mあるので、合計45回、パイプの隙間は年縞が壊れるのでそれを補完するように、3回、4回行います。

引き上げた7万年分すべての年縞を数えるのはとても大変で6、7年を要しました。

水月湖の年縞研究の優れている点は放射性炭素年代測定の基準をつくるためのものさしにしたという点です。

水月湖の年縞は国際日本文化研究センターにいた安田喜憲氏が発見しました。年縞を数えることで過去7万年間が正確な年代で環境復元ができるので注目されましたが、年縞数えだけでは他の場所との同一年代における環境の比較はできません。年代の決定は放射性炭素年代測定によって行われることが多いのですが、水月湖の年縞数えと同じ精度で年代測定されていないことが原因です。精度を上げるには正確な年代のものさしが必要でした。

放射性炭素年代測定は、放射性炭素の同位体の割合を測ることで行われますが、大気中の放射性炭素の割合が常に変化していることが影響し、正確に年代を測ることができません。正確な年代を知るためには、測定値を基準に照らし合わせる(校正する)必要があります。基準は実際の年代が分かっているものの年代測定を行い、作成されています。校正のための試料として樹木の年輪が利用されていましたが、氷期である1万数千年以前は木が見つかりません。放射性炭素の年代測定限界が5万年ほどなのでもっと古い年代の基準が必要でした。そこで、屋久島で樹木の年齢をもとに環境復元に取り組んでおり、年代測定に木の年輪を使っていた北川浩之氏は水月湖の年縞を利用することを考えました。

年縞は7万年連続して存在する上に葉が挟まっています。葉の放射性炭素を測定すれば正確な年代ごとの基準がつけれます。2006年、中川毅氏が完全に連続した堆積物を採取し、中川氏のグループは年縞を数え、葉を取り出して年代ごとの放射性炭素を測定しました。その結果を2012年にサイエンス誌に発表し、パリで行われた世界放射性炭素会議で水月湖の年縞の堆積物のデータを放射性炭素年代測定の基準とすることが決定されました。水月湖の年縞が世界の標準になったのです。

縄文ロマンパーク内にある年縞博物館では様々な工夫と努力を経て、水月湖の年縞の実物を展示することができました。シアターでの180度正面スクリーンと床面の映像やナビゲーターによる解説も好評です。縄文博物館や三方青年の家と連携して学習や宿泊にも対応しています。ぜひ一度お立ち寄りください。



令和5年度 福井県小学校長会 活動方針



福井県小学校長会は、結成以来、本県の小学校教育の充実・発展のため、真摯に研究と実践を積み重ねるとともに教育諸条件の整備・充実に努め、多大な成果をあげてきている。

これからの社会は、Society5.0の実現に向けて急速に変化するとともに、グローバル化・少子高齢化・人口減少社会を迎え、労働構造も大きく変わっていくことになる。また、学校教育においては、新型コロナウイルス感染症に配慮しつつ学校運営・教育活動の充実を推進することが求められている。このような激しく変化する社会の中で、小学校教育においても、正解のない課題に立ち向かい、自立した人間として多様な人々と協働しながら価値の創造に挑み、未来を切り開いていく力の育成が求められている。本県においても「一人一人の個性が輝く、ふくい未来を担う人づくり」の基本理念のもと、子どもたちの「夢と希望」「ふくい愛」を育む教育の推進が求められている。

こうした中であって、学校は、持続可能な社会の担い手の育成が求められ、新たな価値を創造し、社会を生き抜く力を身につけるために、「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力や人間性等」といった三つの力をバランスよく育む教育を実現していかなければならない。そのため校長には、明確なビジョンを掲げ、学校組織の活性化を図り、創意ある教育課程の編成・実施・評価・改善に努めることが求められている。また、ふくいの風土に根付いた教育文化のよいところを継承しつつ、子ども自身の個性に気づかせ、伸ばしていく「引き出す教育」や、好奇心や探究心をもって学びを自ら進んで「楽しむ教育」を家庭や地域などとの幅広い連携・協働のもとで推進していかなければならない。

さらに、「GIGAスクール構想」の推進、いじめ・不登校等への対応、特別支援教育の充実、質の高い教育活動を実現するための教職員の資質能力の向上、学校における働き方改革の実現など、対応すべき重要課題が山積している。また、少人数学級のより一層の推進や教科担任制の導入による持ち授業時数の縮減、教員が子どもと向き合う時間の確保、質の高い教育活動を実現するための教職員定数の改善や人的措置の充実も喫緊の課題となっている。

このような状況の中で、校長は、現状を深く認識し、教育改革の動向を的確に把握しながら、リーダーシップを発揮し、確かな計画と実行力をもって教育成果を

あげていかなければならない。私たちは、組織の総力をあげて課題解決に努めるとともに、積極的に施策提言を進め、もって県民・国民の信頼に応える必要がある。そのために、校長は自らの使命を自覚し、志高く学び続け、権限と責任のもとに、未来社会を創造する力を身につけた日本人の育成を志向して、活力ある学校・信頼に応える学校づくりに努めなければならない。以上の方針をふまえ、本年度は次の活動を重点として推進する。

本年度の活動の重点

- 1 学校経営の充実
- 2 研究活動の充実
- 3 創意ある教育課程の編成・実施・評価・改善
- 4 教職員の資質・能力の向上
- 5 教職員の定数や処遇の改善、働き方改革の推進

これらの活動を推進するために、東海・北陸地区および全国連合小学校長会との連携を一層密にして組織活動の充実に努めるとともに、関係諸機関・団体とも連携し、小学校教育に対する正しい世論の喚起に努める。

主な委員会と活動事項

本年度の活動方針に基づき、本会の事業遂行のために次の専門委員会および特別委員会を設置し、事業を推進する。

1 専門委員会

◇人事行財政対策委員会

義務教育費国庫負担制度の堅持、教職員の基礎定数及び加配定数の拡充、ICTを活用した教育の推進のための専門職員の配置促進、教科担任制の導入による教員の持ち時間数の削減、少人数学級の拡大を目指す学級編制基準見直しの促進、退職時の処遇の充実、働き方改革等のため対策・要請活動を行う。

◇調査研究委員会

今日の学校教育の課題や学校経営上の諸問題について調査研究し、対策に資する。

◇教育研究委員会

研究主題を設定し、研究活動の推進および教育研究大会の企画推進を行う。

◇編集広報委員会

「会報」の発行とホームページの更新により、情報の提供、成果の報告等を行う。

2 特別委員会

必要に応じて設置する。



10月 下旬	○報告書のデータ配信(校長会HP) 県教委、地教委等へ報告書配付
12月 上旬	○調査研究概要報告 各郡市調査研究委員が概要報告
1月 中旬	○本年度活動のまとめ(アンケート)

人事行財政対策委員会	
(要望活動・人対資料)	
4月19日	○第1回専門委員会 (第1回小学校人対委員会) 正・副委員長選出、活動方針・内容について協議等
5月	○県教委と日程・話題等の連絡調整
6月	○第1回小中合同人対役員会 ・当日の運営、参加者について ○各郡市でアンケートを実施、課題・提言案等について集約・分析
7月	○第1回小中合同人対委員会 ○第2回小中合同人対役員会 ・当日の運営および提言等の最終協議
8月	○「県教育長と語る会」準備委員会 ・話題、提言等について ○「県教育長と語る会」
9月	○「県教育長と語る会」についての報告
10月	○全連小人事対策研究協議会参加 (委員長)
1月	○第2回小中合同人対委員会 ・全連小報告 ・次年度に向けての課題の協議

教育研究委員会	
(研究推進) (全国島根大会・東陸静岡大会)	
4月19日	○第1回専門委員会 正・副委員長選出、事業計画案作成 県、東陸・全国教育研究大会について
5月	○全連小・東陸石川大会参加申込
6月13日	○第2回専門委員会 県教育研究奥越大会について
8月24日	○県小学校長教育研究奥越大会 福井型8分科会で郡市発表、研究協議
10月19日 ~20日	○全連小東京大会 11分科会・全体会・シンポジウム
10月26日 ~27日	○東陸岐阜大会 11分科会・全体会
1月	○第3回専門委員会 県教育研究奥越大会の反省等 令和6年度各研究大会の概要

調査研究委員会	
(実態調査・調査報告) (全連小調査)	
4月19日	○第1回専門委員会 正・副委員長選出、年間事業計画の作成 調査テーマ、内容(項目)について
5月 上旬	○調査内容についての会員の希望調査 郡市ごとに希望調査、全体の集計
5月24日	○第2回専門委員会 調査研究項目・内容の決定 調査方法・集計方法について
6月 上旬	○各郡市において調査の実施、集計
7月 中旬	○各郡市調査研究委員会 担当項目の考察作成
8月 下旬	○第3回専門委員会 調査結果の分析、考察検討 調査研究報告書の原稿作成
9月 上旬	○第4回専門委員会(正・副委員長) 原稿検討、調査結果分析、考察
10月	○全連小調査研究協議会参加(委員長)

編集広報委員会	
(会報発行・HP更新)	
4月19日	○第1回専門委員会 正副委員長選出、活動方針 各郡市原稿割当の確認・決定等 「会報」編集計画
5月上旬	○「会報」117号原稿依頼 県教委・校長講話執筆者・新任校長への依頼 ○HP更新①
6月30日	○全連小広報担当者連絡協議会(委員長)
7月11日	○一次校正締切
8月 1日	○第1回編集企画会議(正副委員長) 二次校正・編集作業
8月22日	○第2回専門委員会 「会報」118号企画・原稿依頼計画 ○「会報」117号発行
9月 上旬	○「会報」118号原稿依頼 ○HP更新②
11月14日	○一次校正締切
12月12日	○第2回編集企画会議(正副委員長) 二次校正・編集作業
1月16日	○第3回専門委員会 ○「会報」118号発行
2月	○HP更新③

校 長 講 話

有意義なゴールデンウィークを

福井市明新小学校
田 中 佳 之

(体育館の時計を指して)

2年生の人、今何時か言えますか。

そうですね。8時15分です。1日は24時間、これは世界中どこでも同じです。それはどの国も太陽暦というものを採用していて、太陽の動きによって時間が決まるからです。

ですから、どの国も今8時15分というわけではないのです。例えば、イギリスは今は真夜中です。だいたい11時15分です。

さらに、国によっては、もっと複雑な時間になることもあります。日本は今は北海道も九州も8時15分です。でもアメリカは大きい国ですよ。ですから、ニューヨークが12時でもロサンジェルスが12時というわけではないのです。アメリカは1つの国なのに時差があるのです。これをタイムゾーンといいます。さて、アメリカのタイムゾーンはいくつあるでしょうか。

答えは4つです。

高学年の人に聞いてみましょう。中国も大きい国ですよ。中国にはいくつタイムゾーンがあるでしょうか。実は日本と同じ1つしかないのです。中国は大きい国なのですが、人口のほとんどが東側に集中しているからと言われています。

1日は24時間、そして1年は365日というのは世界中で共通です。しかし、土日の他に休日になる祝日というのは国によって違うのです。さて、日本の祝日は1年間に何日あるか知っていますか。

答えは16日です。でもこの祝日も時代とともに変わってきているのです。例えば、天皇誕生日はその時代の天皇陛下の誕生日ですから、令和になって変わりましたね。さらに、昔は、成人の日は1月15日、体育の日は10月10日と決まっていた。しかし、土、日、月と3連休になると皆さんもうれしいですよ。ですから、成人の日は1月の第2月曜、体育の日は10月の第2月曜と、当時の政府が変えたのです。

今週末からゴールデンウィークに入ります。休日がたくさんあって、自由な時間がありますね。ゲームやインターネットに時間を使うのではなく、家族や友だちとお出かけしたり、外で遊んだり、また好きな本をじっくり読んでみるのもいいですね。1日24時間というのはどの国の人も同じです。でもその時間をどう使うのかは、その人によるのです。有効に使うか、無駄にしまうか、その積み重ねが大きな違いとなります。有意義な時間を過ごしてください。

この夏休みは、
家族で美術館へ行きましょう！坂井市立高椋小学校長
牧 井 正 人

昨年、校長先生はこんな宿題を出しました。覚えていますか。では、いくつか質問するので手を挙げて答えてください。

■どこへ行きましたか？

- ・福井県立美術館 ・福井市美術館
- ・金津創作の森美術館 ・金沢21世紀美術館 ……

たくさんの皆さんが美術館へ行きましたね。初めての人もいましたし、何回も美術館へ行ってくれた人もいました。京都や倉敷、東京の美術館へ行った人もいましたね。ありがとうございました。

■そのとき見た作品を覚えていますか？

- ・ダンボールアート ・カエル ・くじら ・シロクマ
- ・あざらしの写真 ・イヤイヤちゃん ・レントゲン
- ・木で覆われたうさぎ ・雄島の映像

もう一年も前のことなのによく覚えていますね。例えば、県立美術館「戸田正寿」展の内容は、小学生にはやや難しかったのですが、皆さんは好きな作品の思い出を絵で伝えてくれました。作家の戸田正寿さんにその絵をお見せしたところ大変喜んでいました。このように美術館で感じた思い出は、いつまでも忘れないものです。それは、なぜでしょうか。「美しいなあ」「不思議だなあ」「面白いなあ」などの感情を伴ったからではないかと思います。こうした心の動きを「感性」と言います。こうした「感性」を育てていくことを校長先生はとても大切に考えています。少し難しい話になりますが、感性を豊かに育てると、今まで見えなかったことが見えてくる、新しい考え方をもつことができるようになります。坂井市小中学生俳句コンクールの審査員である夏井いつき先生は、「俳句には、人を変える力がある。」「何気なく見てきた風景の見方が変わる、季節の移り変わりをより敏感に感じるようになる。」と顕彰式で話されました。そして、本市児童の感性豊かな俳句を大いに褒めていただき、本校児童の作品もたくさん表彰していただきました。もしかしたら、皆さんの心の中に早くも「感性」の芽が出てきたのかもしれない。

さあ、今年の夏も家族で美術館に行きましょう。

美術館ではなく、博物館や記念館でもよいし、水族館や動物園、小さな展覧会、コンサートでも構いません。丸岡町内にも、素敵な場所があります。「日本一短い手紙の館」には、絵ではないけれど、短い歌がアートとして展示されています。中野重治記念館(丸岡図書館内)には、高椋地区が登場する「梨の花」の資料があります。夏休みに家族で出かけ、本物に会い、感性を育てる時間を見つけてみましょう。夏休み明け、皆さんが見つけた感性の報告を今から楽しみにしています。

チャレンジ！越知山登山

越前町立糸生小学校長
安井 秀明

始業式の時に、目標を決めてチャレンジしてみようという話をしました。どうですか、みなさん。目標に向かってチャレンジできていますか？授業中、勇気を持って発表するのもチャレンジです。がんばりタイムの時に、前回よりも長い距離を走ろうとするのもチャレンジです。みなさんは、いろいろな場面でチャレンジしていますね。

今日は、5・6年生が越知山登山にチャレンジしたことを紹介します。越知山は、1300年ほど前に泰澄大師という方が修行をしたといわれている山で、高さが612mもあります。登山って聞くと楽しそうだなと思う人もいるでしょう。でもそう簡単ではありません。この写真は登っているときの様子です。険しい山道を3時間以上登り続けました。「まだですか？」「あとどれくらいですか？」と聞かれましたが、「もう少しや。がんばれ。」と言って登って行きました。これは山頂の越知神社で撮った写真です。見てわかるように、5・6年生と先生方だけでなく、地域の方々と一緒に登っていただきました。大変心強かったです。一番年配の方は77歳です。このおばあちゃんですが、先頭を歩いていただきました。後ろの方は、消防隊員の方々



が声をかけながら歩いてくださいました。みんなでがんばって、そしてたくさんの人にお世話になったから全員が登り切ることができました。素晴らしいチャレンジです。

その時の〇〇〇〇さんの感想を紹介します。「私は、最後まで登れて良かったと思いました。途中で何回も辛い時がきたけれど、6年生の友だち、先生方、地域の方々のおかげで登ることができました。6年生のみんなには、たくさん応援してもらいました。応援団を作ってくれて、歌を歌ってもらったり、名前を呼んでもらったりしたので元気が出ました。◎◎さんにはリュックを持ってもらったり、背中を押してもらったりしました。本当にありがとうございました。頂上に着いてみんなで景色を見た時は、とても感動したし、うれしかったです。残り1年、このまま楽しい学校生活をみんなと過ごしていきたいです。」〇〇〇〇さんのがんばり、そして5・6年生のみんなの思いやりに拍手！本当によくがんばったチャレンジです。おかげで心が鍛えられました。たくましくなりました。

2学期も、みなさん一人一人が、目標を立ててチャレンジすることを期待しています

色=自分らしさ？

若狭町熊川小学校長
加藤 勝代

色のお話をします。色はよく、人にもたとえられます。みなさんが持っているクーピーは12色。24色や36色のものもあります。熊川小学校は24人だから、24色と同じですね。1つ1つ、いろいろな色があるからいいですね。

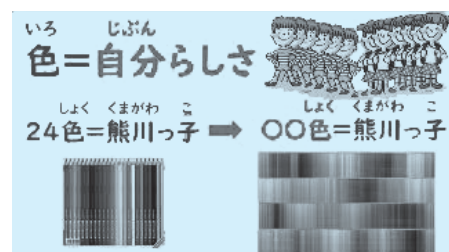
例えば、この山は何色でしょう。緑ですね。でも、いろいろな緑があります。全部同じだと言えば1色になるし、ここは違うと思えば何色にもできます。「同じ」と「少し違う」は、いっしょではありません。「同じ」≠「少し違う」ただ、500色の色鉛筆があれば違うようにぬれますが、12色や24色の場合、色がないときがあります。そんなときは、どうしましょう。いろいろ調べたら、色がないときには作ればいいそうです。Aの色とBの色を混ぜて、新しい色ができます。だから、みなさんも何かを考えたり発表したりするときに、「同じです。」ではなく、「少し違う」自分の意見を大事にして、発表してほしいと思います。



もう一つ、先生が中学生のときに読んだ、国語の教科書に載っていたお話です。志村ふくみさんという染色家が染めたとてもきれいなピンクの着物を見た人が、志村さんに何から染めたのか尋ねました。「桜」という答えを聞いたその人は、花びらだと思いました。でも、本当は開花直前の桜の木の皮からとったものでした。そのお話を讀んだときから、先生も毎年桜を見ると、木の中までピンクでいっぱいになっているように感じます。1つの色も、いろいろな頑張りの中から生まれるのですね。



1つの色は、一人一人の「自分らしさ」みたいなものだと思えます。一人一人が、それぞれに自分らしさを大切にしてほしいと思います。もし、「少し違うけど同じだ」と考えて、「同じです。」と言ってしまうと、24色あるはずの熊川小学校の色の数が23色、22色と減ってしまいます。熊川小学校は24色ですが、友だちと話し合って新しい意見を作ったら、24色だったのが、25色、26色と増えていきます。みんなでたくさん意見を出し合って、24色を何色にもしていきましょう。



新任校長の言葉

みんな違うの当たり前 一人一人にリスペクト

清明小学校長 坪川修一郎

「みんな違うの当たり前」「一人一人にリスペクト」今年度の4月最初の日を迎える直前のことでした。子どもたちや教職員のことをまだ知らない私が、第1回目の職員会議の冒頭で何を語ればいだろうと、頭の中で色々な思いがごちゃごちゃになっていました。その時のことです。テレビのCMから、「みんな違うの当たり前」「一人一人にリスペクト」のフレーズが聞こえてきて、自分の心の中に刺さってきました。

私自身、特別支援教育に長くかかわってきて、一人一人の思いに寄り添った支援を心がけてきたつもりです。CMからこのフレーズを聞いた時、その気持ちを素直にみんなに伝えていこうという思いになりました。そして、職員会議では、子ども同士、教職員同士、教職員と子どもたちが、お互いに「リスペクト」しながら関わり合ってほしいという思いを語りました。そのために、まず私自身が、どのような場面でも「リスペクト」の気持ちを忘れずに、みんなと接していこうと日々言い聞かせています。

今日も、朝から個性豊かな子どもたちの様々な姿が見られます。そして、それを温かく迎え、声をかけている教職員の様子も見られます。そのような風景を見ながら、一人一人の個性が大切にされ、良さが発揮される学校を目指していこうと強く思っています。

校長としての決意

勝山市野向小学校長 飯野 正樹

野向小学校で教頭として2年間を過ごし、そのまま3年目に同校で校長を拝命しました。4月10日の新任式で校長として初めて児童に向けてあいさつをしましたが、そのときに今まで教頭でいた自分が、校長として何を伝えるかを悩んだことを今でもよく覚えています。その時点で自己紹介の後に自分が伝えたことは、「みなさんが学習や活動にしっかりと取り組めるように支えていきます。」でした。その後も、校長の仕事に関わるこのメッセージについて考え続けていました。

ある日、高名な校長先生の、「校長の究極の仕事は子どもの学習権を保障することである」という言葉に触れました。私にとって一番腑に落ちた言葉で、自分が考えていたことが整理された瞬間でした。

本校は全校16名の完全複式校です。周りは自然が豊かで地域の方もとても協力的です。このような環境の中で、小さくてもキラリと輝く学校づくりができるように校長としてできることに精一杯取り組んでいきたいです。

校長として、「みなさんが毎日笑顔で通える楽しい学校になるようにします。」という決意で、今後努めていきたいと思っています。

皆がよりよくなるために

福井市清水南小学校長 大野喜美恵

校長となり、初めて見える景色、抱く思いがあります。子どもたちや先生方の一人一人、敷地内の草花まで愛おしく、太陽のように、明るく、温かく、分け隔てなく、全エネルギーを注ぎたいとの心もちになりました。

児童と教師は相似形と言われるように、校長もまさに探究の日々。とりまく環境（人、もの、こと）とその意味を理解し、状況に応じて変化する、よりよい方法を探ることが求められます。自分の目でよく見、自分なりに考え、皆と話し合い、構想する時間が必要です。また、思い込みを手放し、今、この場に求められる自分になることも大切な気がします。

振り返ると、気がかりなことには「確認、提案、合意形成、お願い」を、課題には関係者との話し合いを重ねてきました。行き詰まりそうな時は「いいこと見つけ」で好循環が生まれました。いつも先生方が協力的で、率先して行動され、真摯に役目を果たしてくれているからだ実感しています。

赴任してから三か月が過ぎ、学校全体が新しい一つのチームになりつつあります。今後は穏やかに「信じて任せ、待って、支える」姿勢でいたいと思います。皆がよりよくなるために、校長として誠実に「なすべきことを、適時適切に行う」ことを心がけていきたいです。

校長室に聞こえる声

坂井市立大関小学校長 柳原 達郎

校長室にいと、あちこちから子どもたちの声がよく聞こえてきます。現任校は二度目の勤務で、以前は自分の学級に集中していたからなのか、そんなことを感じることはありませんでした。

しかし、今は、「あっ、今、前の庭で虫を探しているな。」とか、「おや？仲良く遊んでいたのに、雲行きが怪しいぞ。」など、子どもたちの様子が本当によくわかります。

前回の勤務時に、坂井市の「一筆啓上賞」で、本校児童の作品が大賞に選ばれました。テーマは「先生」で、当時の校長先生へ書いた手紙でした。

『校長先生へ』校長しつつもなををしていますか。きゅうしょく一人でたべてさみしくないですか。」というものでした。校長室にいる校長を気にする優しい手紙でした。その彼に、今、私が校長として答えるとしたら、「全然さみしくないよ。みんなの色々な声が聞こえてきて、毎日楽しいよ。」という言葉になるでしょう。当時の校長先生もきっと同じ事を言われたと思います。

校長室の廊下の扉はいつも開けています。子どもたちが廊下を通るときひょいと覗いて、「校長先生！」と声をかけてくれるのが何より嬉しく、学校をそんな子どもたちの明るい笑顔でいっぱいにすることが、校長としての最大の仕事だと、改めて思っている日々です。

地域に愛着と誇りをもって

鯖江市片上小学校長 茨田 隆徳

毎朝登校してくる子どもたちを校門で迎えていると、地域の方々に手厚く見守られている姿をよく見かけます。そして、よく子どもたちの名前を覚えておられて声をかけてくださいます。安心して笑顔で登校できる元気の源が温かい家庭や地域にあることを改めて実感しています。

4月のある日、一市民の方からお手紙をいただきました。昨年度の6年生がエシオス隊(エシカル消費を押し進める隊)と称し、市内量販店で買い物に來られる地元の方々にタブレットを用いて学んだことを伝える活動に居合わせ、その熱く語る姿に感動されたとのことでした。

全校85名の小さな学校ですが、子どもたちも教職員も笑顔にあふれ、意欲的に活動に取り組んでいます。来年度には150周年を迎えます。この片上地区に愛着と誇りをもち、笑顔あふれる子どもたちと共に歩む日々を楽しみながら、地域に根ざす学校づくりに、地域と学校が一体となって取り組みたいと考えています。

つながりの中に生かされて

越前市服間小学校長 上島 雅恵

「誰一人子どもを取り残しません。」「子どもも教員も元気に通ってくれる学校を目指します。」と職員会議やPTA総会で宣言しました。地域の願いを肌で感じ、目指す児童像を共有し、他者との協働で児童の課題解決力をつけ、生きる力を養いたいという思いで、学校経営に意気込んでいます。教科担任制を取り入れ、担当学年や校務分掌を全面的に入れ替えたり、地元大学と連携して高学年の探究活動に学生の手を借りたり、日課表を変更し下校時刻を繰り上げたりしました。その事前説明を保護者に行う度に、理解を示していただき、歴代校長が信用の貯金をしてくださっていたことに気付かされます。

また、with新型コロナの様式が変わり、市校長会をはじめ、県校長会や県女性校長・教頭会において対面で諸先輩方のお話を聞く機会をいただき、多くのヒントと勇気をいただくことができました。「校長は決断の連続である。」といいます。今後も横のつながりを大切に、市町を越えて同僚性を培い、地域に根ざした学校経営を行っていきます。どの児童にも居場所がある魅力ある学校づくりを目指して。

すべての児童を学びからはなさない

瓜生小学校長 城谷 俊臣

本年度、瓜生小学校では、エレベーターの工事があって1年生の教室が校長室の近くに引っ越してきました。教室とトイレの間に校長室があり、1年生たちが校長室にしょっちゅう遊びに來ます。今はいろんなことにすぐに夢中になる1年生たちですが、この先もずっと嫌にならずに進んで学習できるようにしてあげたいと心から思います。生きていく上で何度も学び直しが必要な時代になりました。できれば楽しく、進んで学ぶ人になって欲しいものです。

4月に、学校の一番大きな目標として、すべての児童を学びからはなさないことを掲げました。子どもたちは成長のエネルギーを持っていて、うまく手助けしてやれば進んで学習し、成長する人に育っていくはず。「はなさない」としたのは大人が良かれと思ってしていることが場合によっては子どもを学びからはなしてしまうと考えるからです。その点から教師も何度も学び直しが必要です。つまり、すべての教職員を学びからはなさないことも目標になります。

校長として目標の達成に向けて試行錯誤しながら取り組んでいくつもりですが、まずは校長が進んで学び直しをしなくてはと思い、学校のICT環境を強化していくために進んで学習に取り組んでいるところです。

校長室の写真

おおい町大島小学校長 時岡 純子

本校の校長室には、歴代校長の写真がずらりと並んでいます。昨年までは、今時こんな写真要るのかなと思っていましたが、自分がこの立場になるとこの写真が実に心強いのです。

学校の毎日は、順風満帆、悩みなんて全く無い！なんて日はほとんどありません。生徒指導事案、保護者対応、職員の健康、台風接近…と悩みの種が次々やってきます。職員室では涼しい顔でみんなを励ますものの、校長室では自分に務まるのかと落ち込むこともしばしば。そんな時、顔をあげると写真の皆さんとばかり目が合うのです。そうか、皆さんもこんな日々を乗り越えてこられたのだ。逃げずに向き合ってきたのだ。そう思うと、不思議に心は落ち着きます。「子どもたちのため、この大島小学校のためにがんばりなさいよ。」と励まされているようで、新たな活力さえ湧いてきます。

「子どもたちを新芽とすると、地域は土壌、職員は風。」と、ある研修で学びました。「それぞれの学校にはその地域の先人の願いが込められている。校長はその願いをくみ取って、素晴らしい花を咲かせるために、学校に新たな風を吹かせるのです。」地域の方々の願い、歴代校長の思い。これらを受け継ぎ、職員とともに実践を積み重ね、一人一人が成長できる学校をつくってきたいと思います。

編集後記

この度、「会報」117号を発行する運びとなりました。お忙しい中、貴重な原稿をお寄せいただき、深く感謝申し上げます。県小学校長会では、「会報」をはじめ、HPでも活動内容等を発信しております。令和5年度も「会報」やHPが、校長として職責を果たす一助となりましたら幸いです。